

あおもり縄文まほろば展を見る

- アスファルトで接合された合掌土偶や縄文人が描かれた石冠ほか
青森の縄文の名品を見る
- 縄文が教科書から消えつつある

2月16日大阪で開催されていた「あおもり縄文まほろば展」の開催にあわせて、久しぶりに三内丸山縄文の会「大阪縄文塾」。三内丸山遺跡の岡田康博さんの案内で見学と夜の懇親会。

もう数年 青森三内丸山遺跡を訪れていませんが、その間にもどんどん新しい縄文の世界が広がり、いろんな新しい人たちにえるのが、この会の楽しみ。

今回は関西で縄文のイメージを斬新な建築設計に展開されている建築家の渡辺豊和先生(京都造形芸術大教授)のびっくりする斬新な縄文発想の建築群の話と岡田康博さんの「あおもり縄文まほろば展」縄文遺跡出土品の解説。世界遺産登録を目指す「青森の縄文」 青森の縄文遺跡から出土した名品ばかり。知っているようで知らなかつた出土品の新しい見方の解説に吸い寄せられて 本当に岡田さん解説の図録がほしかった。また、縄文時代の記述が今 社会科の教科書からどんどん消えていると聞きました。もうびっくりです。縄文の名品を見た後だけになおさらびっくりしました。

左に示しましたのは岡田さんの解説を聞きながらとった写真とパンフから作った出展されていた縄文の名品です。

これらの名品をゆっくり見ていると 何か違つた世界が見えてくると思いませんか・・・

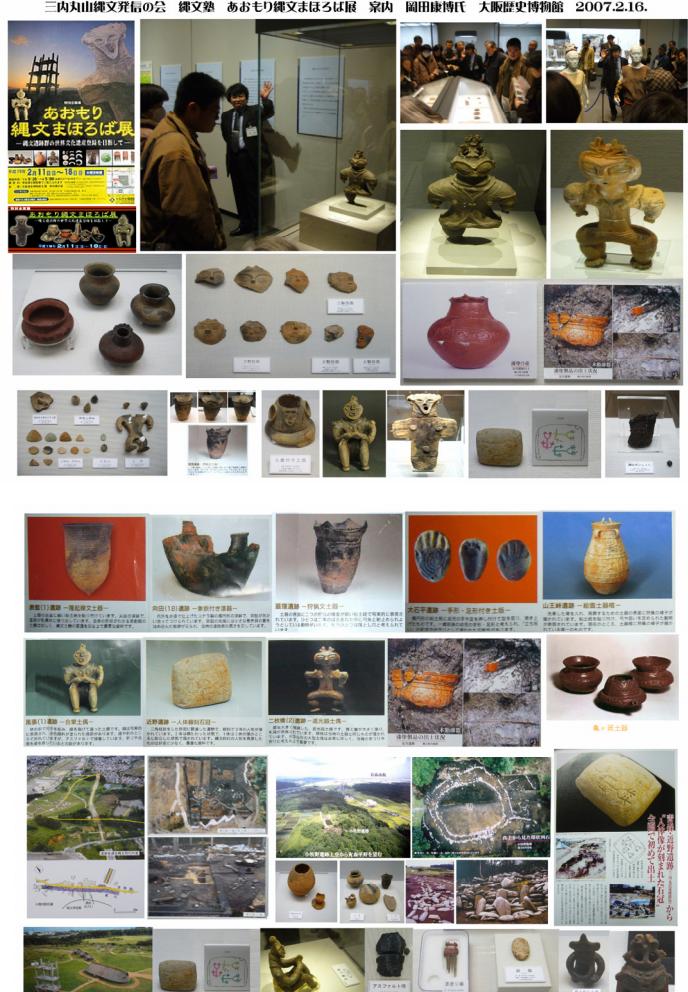
- 縄文が教科書から消えつつある

今回は登録されませんでしたが、世界遺産登録を目指した「青森の縄文」。 その名品を広く関西にも知ってもらおうとした展覧会。最近はレプリカ展示が多い中 1,2品を除いて 手に取るような近さで見られました。縄文のすばらしい土偶の数々・青森縄文土器の変遷・是川遺跡の漆・亀ヶ岡土器など ごく最近の出土品も含めて青森県で出土した縄文時代総覧の名品ぞろいにびっくり。

関西では縄文の遺物を見る機会が少なく、関西にも常設の縄文展示場がほしいなあ・・・・と。

現代のアートに通じる縄文の複雑な文様も「縄文の模様ばかりにちゃくもくせず、模様をつけた後 消し去っている部分にも目を向けると模様の作り方が理解できる」と。「そう 見るのか」と また ひとつ縄文の見方が増えました。

今回 私の一番は 縄文人が描かれている石冠とアスファルト接着された土偶食い入るように見てきました。また、三内丸山遺跡の墓の道がさらに伸びたこと また ストーンサークル小牧野遺跡の遺物をはじめて見れることもラッキーでした。



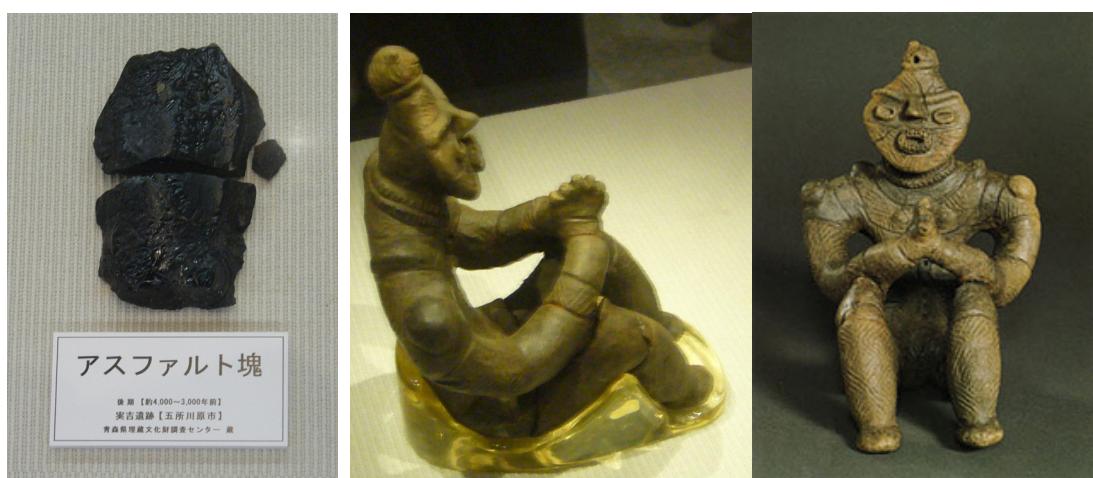


石冠とは、かつて埋葬された人の頭部近くから出土したことから呼ばれたもので祭祀に使われた石器ともいわれるが用途不明

青森産ない丸山遺跡のすぐ近く近野遺跡で、3人の人物像が刻まれた縄文時代後期の石器「石冠」が出土。複数の人物を描いた石冠が見つかったのは、国内初という。…

出土した石冠は縄文時代中期の土坑墓（大人の墓）から出土したもので、北海道式石冠と呼ばれているが、用途は不明である。縄文人の精神世界はまだ未解明の部分が多い

北海道余市海岸にあるオコッペの洞窟続縄文時代後期（約1,600～1,300年前）の古代人が彫った岩壁彫刻でみた線刻画に似ており、同じ文化圏 北方系の異物かもしれない。



風張1遺跡 合掌土偶 縄文後期

風張遺跡は八戸市是川地区にある遺跡で、中央の広場を中心に墓や建物が同心円状に配置された環状集落です。この合掌土偶は体の前で両手を組み膝を折り曲げて座った土偶です。胸の前で手を組んだ、合掌している土偶はこれ以外に例がなく、祈りや出産の様子をあらわしているとも言われています。また、顔に赤色顔料の痕跡があり、縄文時代の風習である唇の刺青や髪型、衣服の様子などが表現されていることから、当時の女性の様子や生活習慣を窺い知ることができ、また 縄文の精神世界を垣間見ることができるすばらしい土偶です。

腕や肘のところが折れていて アスファルトで接着されています。

以前から興味のあった縄文のアスファルト接着・接合。鎌などの武器だけでなく、こんなところにも使われているのを始めて知り、同時に別の遺跡で出土した縄文のアスファルト塊にもひきつけられました。

この接合もしっかりと接合されており、意図的に折って、丁寧にアスファルトで接合している風にも取れ、縄文の精神世界につながる接合かもしれない。また アスファルトのこんな塊が 東北の縄文の村々に運ばれていた。



、接合技術がすでに縄文の重要な技術として しっかり縄文社会に根づいていたことを知って、接合屋の私にとってはうれしい限り。合掌土偶に出会えたことラッキーでした。



三内丸山縄文のボシェット



最近出土した土偶



遮光器土偶



是川遺跡 漆塗りの櫛



種々の亀ヶ岡式土器



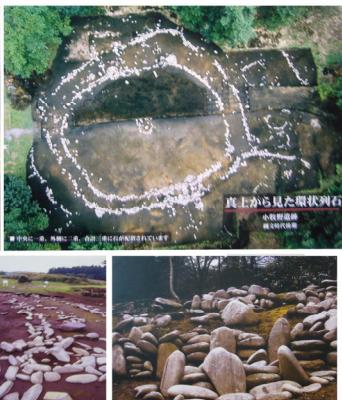
左:狩猟 中央:落とし穴 右:木の場面が描かれた縄文土器



三内丸山遺跡の墓の道



縄文のストーンサークル 小牧野遺跡



「縄文時代が教科書から消えつつある」にびっくり



大阪で開かれた青森三内丸山縄文の会「大阪縄文塾」で、小学校の社会科の教科書から 縄文時代を教える記述がどんどん減って いまやほとんど記述がなくなっていると聞きました。
もうびっくりです。

学習指導要領での歴史学習に関する規定では、最初の部分が「農耕の始まり、古墳について調べ、大和朝廷による国土統一の様子が分かること」となっていて、農耕以前の時代の旧石器時代や縄文時代を扱わなくともよいと解釈されつつあるらしいのです。

日本人のルーツは弥生人 縄文人は異邦人と思っている人は特に関西では多いし、何か最大公約以外の少数は切り捨て・切捨て簡略にしてゆく最近の効率化重視の世相そのものに感じられます。

グローバリゼーション 市場万能のディジタル・効率主義が医療を荒廃させ、深刻な労働・社会問題をもたらしつつあると聞いたばかり。 教育の局面にもすでにそんな方向が深く入り込んでいることにびっくりです。

「結果は歴史が語ってくれる」とよくいますが、歴史とは幾世代もが蓄積してきた経験の賜物 その判断が極めて先を予告すること 先を判断する指針を与えてくれることを知りながら、今 縄文を消し去ることの重さを考えないのか・・・と憂鬱になってきます。

「世界文明にも匹敵する日本が世界に誇る木の文化 縄文」

「ストーンサークルや環状集落 そして 縄文の文化 日本人の心を映す縄文」

「穢れ・戦を知らなかった縄文」

「自然と強制してきた森の文化 縄文」等々

日本人のルーツと強く結びついている縄文時代を今の時代の都合でそっくり抜くことに不安を感じます。

今 三内丸山遺跡をはじめ数々の縄文遺跡が縄文のすばらしさと日本人がはぐくんできた文化・社会などの関係を解き明かしつつある今。そして また、地球環境・自然との共存が本当に必要になってきた今 縄文の知恵に学ばねばならぬ時代に本当に無謀としか言いようがない。

三内丸山縄文遺跡や青森の縄文の名品の数々を見た後だけに余計にさびしくなりました。

グローバリズムを口にする人たちの市場万能主義は本当に人を幸福にすることは思えない。

調和と共生の人間主義がないと・・・。

そして、それを可能とする「人間主義」「理念・倫理感」の醸成が今一番日本にかけているところと感じます。

せつな的な対応に危機感をますます強くします。

縄文の名品を見た後だけになおさらびっくりしました。

これらの名品をゆっくり見ていると 何か違った世界が見えてくると思いませんか・・・

2007. 2. 16. 夜

大阪縄文塾のあと 大阪の街を歩きながら

By Mutsu Nakanishi